

花王の環境への取り組み【DMA,LA10,PR3】

花王のアプローチ

花王は、“よきモノづくり”を通じて、豊かな生活文化を実現するとともに、社会のサステナビリティに貢献するため、原材料調達、開発・生産・販売、輸送、使用、廃棄・リサイクルの全段階において、環境の保全と人の安全に十分な配慮をしています。

社会的課題と花王のアプローチ

現在、世界の人口は70億人を超え、2050年には約90億人となり、都市の人口比率も増加すると考えられています。

世界のエネルギー消費量は人口増や経済成長等に伴い、引き続き増加傾向が続くと予想されています。すでに、エネルギー消費や森林の伐採などの人間活動の影響により、大気中のCO₂濃度は産業革命以前の状態から大幅に上昇し、気候変動に伴う影響が地球規模で現れ始めています。また、すべての生物が生きていくために必要な水についても、人口増や人口密集に伴い、汚染や地域的・季節的な水不足などの課題が顕在化し始めています。

そこで花王は、原材料調達から開発・生産・販売、輸送、使用、廃棄・リサイクルからなる製品のライフサイクル全体を通じて、消費者、ビジネスパートナー、社会など多様なステークホルダーの皆さまと協働でCO₂排出量や水使用量の削減などの取り組み

を進める“いっしょにeco”活動を推進しています。

また、化学物質を取り扱う企業としての責任を果たしながら、自然と調和する環境経営を推進しています。

一方、花王は、パーム油やヤシ油、パルプなど多くの天然資源を原材料として使用しているように、生物多様性の恵みを受けて事業を行なっています。事業活動における生物多様性への影響の低減はもちろん、社会活動においても生物多様性の保全に努めています。

このような考えのもと、花王は、CO₂、水、化学物質、生物多様性の4項目を環境の重要課題として認識しています。「世界の人々の豊かな生活文化の実現に貢献する」ことを使命とし、中・長期的な経営戦略として「環境への負荷低減をベースとしたモノづくり」を進めていきます。

方針

花王は、「環境」の基本理念と基本方針を定めており、さらにライフサイクルを通じた活動をさまざまなステークホルダーと共に実施していくことを「環境宣言」で表明しています。また、花王レスポンシブル・ケア方針で「環境保全」の活動方針を定め、活動しています。

さらに、排水規制や廃棄物処理に関する法令を遵守するために、各国で多くの経営資源を活用しています。

環境適合設計要領

製品設計においては、考慮すべき環境への影響および安全性を評価するための「環境適合設計要領」を整備しており、新製品・改良品の発売を決定する際には、本要領による確認を行なうことで、製品の機能・性能向上と環境負荷低減を図っています。本要領では、製品ライフサイクル全体におけるCO₂排出量を厳密に定量化し、既存の「基準製品」と比較して、その改善率を評価しています。

“いっしょにeco”マーク表示基準

さらに、基準製品よりライフサイクルCO₂排出量が低減し、かつ花王が定めた認定基準を一つ以上クリアするという厳しい認定基準を満たす“環境負荷の少ない製品”に対しては、“いっしょにeco”マークを表示しています。

- 環境安全の基本理念と基本方針
http://www.kao.com/jp/corp_csr/eco_activities_03_02.html
- 環境宣言
http://www.kao.com/jp/corp_csr/eco_activities_03.html
- 花王レスポンシブル・ケア方針
http://www.kao.com/jp/corp_csr/eco_activities_05_00.html
- 環境適合設計要領
http://www.kao.com/jp/corp_csr/eco_activities_01_00.html
- “いっしょにeco”マーク表示基準
http://www.kao.com/jp/corp_csr/eco_activities_01_01.html

体制

花王レスポンシブル・ケア方針および推進体制や活動については、右記のページに掲載しています。

→P183「レスポンシブル・ケア活動」

教育と浸透

花王の環境への取り組みについては、「花王 ビジネス コンダクト ガイドライン(BCG)」に定めており、その教育計画と実績は、BCGの啓発活動の計画と実績と同様です。

また「環境宣言」については、定期的に、新入社員研修や階層別の集合研修などで実施しています。本社担当部署が2016年に講師として実施した研修は15回、受講者数は462人でした。

一方、レスポンシブル・ケア(RC)推進体制下において、RC推進事務局や各推進部門の担当者が社員や協力会社の社員を

対象に随時教育を実施しており、RC推進事務局は、46回、のべ622人(国内22回、468人/海外24回、154人)に対し、教育を実施しました。

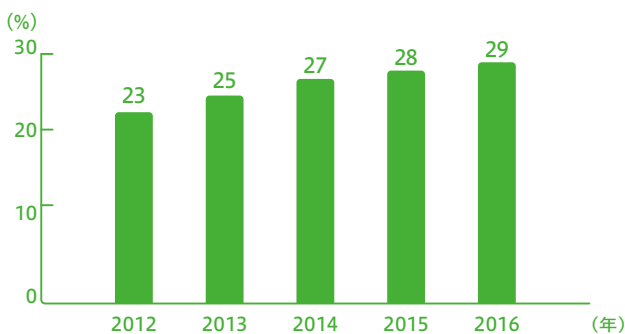
ISO14001などの環境マネジメントシステムを導入しているサイトにおいては、新入社員や配転者をはじめすべての社員を対象に年1回以上の教育を行なっています。

→P113「カルチャー>インテグリティ」

2016年実績

独自の厳しい認定基準をクリアした環境負荷の少ない製品に“いっしょにeco”マークを表示しています。

“いっしょにeco”マーク表示製品売上比率(国内消費者向け製品)



→“いっしょにeco”マークの表示基準

http://www.kao.com/jp/corp_csr/eco_activities_01_01.html

→“いっしょにeco”マーク表示製品一覧

http://www.kao.com/jp/corp_csr/eco_activities_01_02.html

CDP*による評価

- ・気候変動 : A-
- ・水 : A
- ・森林(木材) : A-
- (パーム油) : A-
- ・サプライチェーンエンゲージメント : A-

※ CDP

機関投資家の運営による、ロンドンに本部を置く非営利団体であり、気候変動、水、森林に関する情報開示を企業等に求める活動等を行なっている。

ステークホルダーとの協働

花王は、原材料調達から開発・生産・販売、輸送、使用、廃棄・リサイクルなど、製品がかかわるサイクルの中で消費者をはじめさまざまなステークホルダーの皆さまと“いっしょにeco”を推進していきます。

→P23「エコロジー>CO₂」

→P67「エコロジー>環境コミュニケーション」